

# 日本震災 東大震 10年

元復興相

ねもと たくみ  
根本 匠 氏

## 福島復興長い時間軸で

としました。石原伸晃環境相(当時)と議論し翌月、用地を面で買う方針を決めました。

その後、福島県とも水面下でやりとりを続け、第一原発が立地する双葉、大熊両町か

らの要請を受けて示したのが、14年8月に発表した両町の復興構想「根本イニシアティブ」です。帰還困難区域で

も、復興に必要な場所は優先的に除染し、未来につながる拠点を整備する考えを示し、

将来の住民帰還まで国が責任を持って取り組む決意を書き

ねもと・たくみ 福島県郡山市出身。建設省を退官し、1993年に衆院議員。震災翌年、政権交代直後の第2次安倍内閣で復興相に就任した。69歳。

込みました。これが受け入れ

につながりました。現在の特定復興再生拠点区域(復興拠点)は、この構想と結びついて

6町村の復興拠点に産業を集積し、医療福祉施設も整備、帰還だけでなく外からの移住も呼び込みます。テレワークの推進などコロナ禍で行動変

容が起きており、ある種のチャンスが生まれています。復興拠点外の帰還困難区域は、活用方法に柔軟な考え方を

居住を前提としない拠点外での除染を行わずに避難指示を解除し、復興公園を整備したいという飯館村の考え方も理解できます。

この10年で放射線についての様々な科学的知見が蓄積されました。「年間1ミリシーベルトも除染の対象地域を決める考え方の基本でしたが、世界では年間5ミリ・シーベルト以上に住んでいる地域もあります。風評についても、放射線リスクに対する正しい理解が不可欠です。

岩手、宮城も含めて復興は大きく進みましたが、福島では今なお避難生活を送られている方がいることは忘れてはなりません。帰還するかしな

いか、人の心はそれぞれで、政府の仕事は戻りたい人が戻れるようにすることです。復興庁には司令塔の機能を発揮してもらいたいです。

福島の復興は既成の考え方にとらわれず、ある程度長い時間軸で考えることも必要です。避難先から仕事などで古里に通い、徐々に復興していった後に戻って住む形もあります。来年度からの第2期復興・創生期間は、国の施策が福島に集中し、新たなステージに入ります。地方創生のモデルにもなる魅力ある福島をつくり、日本の未来を先取りする希望の地にしたいです。

(福島支局 阿部雄太)

2012年12月、復興相に就いて事務方にまず聞いたのは、東京電力福島第一原発事故の汚染土を一時保管する中間貯蔵施設の検討状況でした。施設ができないと除染が遅れ、復興も遅れます。当時は最大の課題でした。



ねもと・たくみ 福島県郡山市出身。建設省を退官し、1993年に衆院議員。震災翌年、政権交代直後の第2次安倍内閣で復興相に就任した。69歳。

復興拠点外の帰還困難区域は、活用方法に柔軟な考え方を

復興は大きく進みましたが、福島では今なお避難生活を送られている方がいることは忘れてはなりません。帰還するかしな

(福島支局 阿部雄太)